

学生運動に複雑な影 落とす党の路線闘争

中国の政治・社会状況が再び流動化している。去る十二月五日に安徽省合肥市で起こった省人民代表の選挙をめぐる学生運動の抗議デモは、この一月間に全国各地の大学に飛び火し、自由と民主を求める学生運動として、さらには現体制への不満や批判を表明する急進的な政治改革運動として、思わぬ展開を遂げてき



会主義精神文明決議、そして本年秋に予定されている中国共産党第十三回大会という一連の中国政治過程をめぐって、鄧小平氏らの改革派と陳雲氏らの原則派（一般には保守派といわれているが、私はむしろ原則派と呼ぶべきだと思う）あるいはその中間派とのあいだに存在する一種の路線闘争が今回の運動に複雑な影を落としていることである。

「民主」に揺れる中国の行方

中嶋 嶺 雄

に危機感をいだいて、急ぎよこれを抑圧する姿勢を示していた。最近の経緯もこのことを物語っている。

六日に党の機関紙「人民日報」の社説が、同八日には軍の機関紙「解放軍報」の社説が、「ブルジョアの自由化」への強い反対を打ち出したことよって、今回の学生運動は大きな転機を迎えたのであるが、次いで注目の知識人、中国科学技術大学副学長の方

「自由」という盾と矛の根本問題にとられ、衝き動かされてゆかざるを得ないだろう。基本的にはほとんど変化のない中国社会

とどうした状況のなかで、日本と比較しても明治維新以来一世紀以上にわたる近代化の遅れというツケ、外部世界がもっとも急激に発展した戦後の三十年間を「毛沢東思想」に呪縛（じゆばく）されてきたことのツケ、そして近代化に不適な社会主義体制下にいまもあるというツケの「三個苦悩（トリレンマ）」に中国は悩んでいる

この両者がからんだ今回の出来事は、従って、自然発生的な要素をもちつつも、中国のこれまでの学生運動やデモがそうであるように、やはり内政上の角縁と相関的なものだと思なければならぬ。

「民主」に揺れる中国の行方

私はたまたま、今回のデモが発生する直前の昨年十一月下旬から十二月初旬にかけて北京、杭州、上海を訪れていた。中国社会科学院日本研究所と本田財団が共催した「技術文明と現代化」と題する北

さらに遠回りを強いられる近代化への道

とどうした状況のなかで、日本と比較しても明治維新以来一世紀以上にわたる近代化の遅れというツケ、外部世界がもっとも急激に発展した戦後の三十年間を「毛沢東思想」に呪縛（じゆばく）されてきたことのツケ、そして近代化に不適な社会主義体制下にいまもあるというツケの「三個苦悩（トリレンマ）」に中国は悩んでいる

た。今回の運動を観察している

出来事は、従って、自然発生的な要素をもちつつも、中国のこれまでの学生運動やデモがそうであるように、やはり内政上の角縁と相関的なものだと思わなければならぬ。

勵之、評論家の王若望、作家の劉賓雁の三氏が学生を煽動（せんどう）し、反党思想を鼓吹したとして党から除名されたことにより、中国の民主化運動は一転して窮地に追い

京シンポジウムに出席するた

のであるから、そこから脱却するには長期の時間が必要であり、中国の現代化は急いで無理である。言を私先のシンポジウムで報告したところ、何人かの中国知識人から「よくぞ本當のことを言ってくれた」と手を握られたことは印象的であった。

うか。こうして中国の近代化は、さらに遠まわりをしなくてはならない。

民主」に揺れる中国の行方

今回の運動を観察している。その二つの大きな特徴を指摘することができる。まず第一は、入浴についての不満といった学園生活改善要求から現体制の中途半端な改革の問題点を根本から批判しようとする高度に政治性を帯びた反体制運動まで、きわめて広範で多様な内容がそこに含まれていることである。

党の強い反対表明で民主化運動は窮地へ

当初は、党内の原則派との対抗上、学生デモを容認もしくは鼓吹していたかに見えた

変化はいかにと目を凝らして毎日を過ごしたけれども、私の率直な印象は、中国社会は基本的にほとんど変わっていないというものであった。

このようなところこそ、中国の根本的な変化が始まっていたのだが、民主と自由を求め知識人や青年たちの運動は、この当分、冬の季節に閉ざされ続けるのではなから

（東京外語大教授・現代中国学）
陶芸品や素描など百八十六点を展示
バーナード・リーチ
生誕百年記念特別展
陶芸を通して東西文化の融

第二には、一昨年九月の中国共産党全国代表会議、昨年九月の同六中全会における社

改革派が、予想を越えた運動の急進化・尖鋭（せんえい）化

たいする「開放」が進んでい

閉ざされ続けるのではなから

閉ざされ続けるのではなから

閉ざされ続けるのではなから

工ノアトモモ人ノ片屋ノ

